

優勝おめでとうございます。～感動をありがとう!～

ウエイトリフティング

成年男子
62 kg級クリーン&ジャーク
内村湧嬉

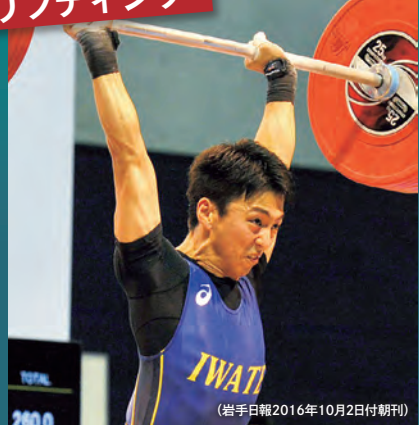


(岩手日報2016年10月1日付朝刊)

岩泉の人たちにいい報告ができる
「日本」になったよ

ウエイトリフティング

成年男子
56 kg級クリーン&ジャーク
艾幸太



(岩手日報2016年10月2日付朝刊)

声援で本来の力以上が出せた

なぎなた



(岩手日報2016年10月3日付朝刊)

少年女子演技

山火・武田

背中越しに聞こえる歓声で
勝ったのがわかった

ライフル射撃

成年女子
10 mエアピストル(40発)
佐々木千鶴



感謝の気持ちを結果で表せた

フェンシング



「チーム」で勝った

成年男子フルレ

藤野・工藤・佐々木

山岳



少年男子リード

山内・中島

「優勝」狙っていた

カヌー



(岩手日報2016年10月10日付朝刊)

カヤックシングル200m / 500m

中前 につき

2位じゃだめだ

レスリング

少年男子
フリースタイル120キロ級
大崎 滉 祐



(岩手日報2016年10月9日付朝刊)

あきらめない…結果はついてくる

レスリング



(岩手日報2016年10月10日付朝刊)

成年男子グレコローマンスタイル66キロ級
川瀬 克 祥

何が何でも勝ちたかった

剣道

成年男子
菅野・古館・小田口・赤崎・下川



(岩手日報2016年10月11日付朝刊)

選手全員の心が一つになっていた

剣道

成年女子
岡崎・中村・千葉



(岩手日報2016年10月8日付朝刊)

歓声は重圧ではなく勇氣になった

剣道



(岩手日報2016年10月10日付朝刊)

少年女子 阿部・瀬戸・高橋・及川・高野橋・小林

日本で一番のチーム！

陸上

成年男子
10000m競歩
高橋 英 輝



岩手のために、自分のために

空手

成年男子形
在本 幸 司



勝たないと意味がない

空手

成年男子
組手個人重量級
石塚 将 也



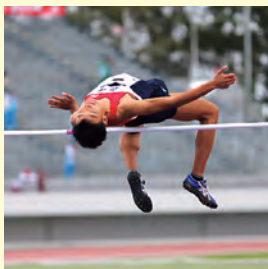
(岩手日報2016年10月8日付朝刊)

恩返しできるのは、結果を残すだけ

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

陸上

(一財)岩手陸上競技協会 監督 千葉 信彦



10月11日の総合閉会式をもって第71回国民体育大会、希望郷いわて国体のいっさいが終了した。陸上競技は競技得点47点、男女総合順位23位という結果で国体を終えた。10月7日、大会初日は米沢茂友樹選手が成年男子円盤投で第2位となり上々の形でスタートを切ることができた。2日目も成年男女の100mで宮崎幸辰選手、藤沢沙也加選手が4位入賞と順調に加点。3日目には少年男子共通110mHの鎌田直志選手が5位入賞、同じく走高跳の高橋佳五選手が3位入賞を果たした。さらにリオデジャネイロ五輪20kmW代表の高橋英輝選手が成年男子10000mWで大会新記録を樹立して優勝するなどチーム岩手として盛り上がりを見せた。ただ、もう一步で入賞という種目が複数あり後半戦に向け不安を残した。4日目は入

賞なしに終わり、最終日は成年男子800mの田中匠瑛選手の8位入賞のみとなり残り二日間は1点しか獲得できなかった。

振り返れば、後悔が先に立つ結果で終わってしまった。～していたら。～していれば。たればが勝負の世界で通用しないことは重々承知している。ただ、地元で開催された国体での経験を次の手立てとして生かさない手はない。幸い37点中36点が岩手出身選手によるものだった。少年から成年までの長期的な視野に立った選手強化、更にそこから国際大会でも活躍する選手の育成など、これからも岩手のスポーツ界の発展に尽力していきたい。

水泳

岩手県水泳連盟 副理事長 小野寺 丈 晴



結果は競泳競技の千葉すみれ選手が2種目で入賞したものの、獲得得点が2点という結果でした。わかやま国体では3年連続で得点を獲得し地元国体での更なる活躍を期待して臨みましたが、10位や11位、12位と入賞まであと僅かという種目が多く、悔いの残る結果が多かったと思います。

水泳競技は競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング、水球の4競技に今年から正式種目となったオープンウォータースイミング(OWS)の5つの競技で行われ、競泳ではトップ選手を集めた宿泊や上位数名を他県へ派遣し合同練習、開催年の5月連休には強豪の神奈川県を岩手に招き合同合宿を開催しました。シンクロ競技はオリンピックや世界選手権の日本代表コーチ経験がある東京シンクロの花牟礼先生を招聘、飛込競技は通年で使用できる飛込プー

ルが県内に無い厳しい環境の中で、秋田や宮城に土日を使って通い、水球競技は県立大学プールでの泳ぎ込みや総合プールでボールを使う練習や県外遠征を重ね、OWS競技は県外レースで経験を積みました。国体を見据えて各々の競技で強化事業を行い、本番を迎えました。

国体では組み合わせに恵まれなかったり、力不足が露呈されたり、レース展開のまずさがあったり等と上述の結果になりましたが、今年の競泳では全国中学での表彰台、飛込でのインターハイ入賞、水球の11年ぶりのインターハイ出場、OWSのワールドカップ出場と、例年以上の目覚ましい結果が出ています。地元国体を見据え、強化システムを構築し実施された強化事業の成果は、着実に選手や指導者に浸透しているものと確信しています。国体をきっかけに躍進できるよう今後も努めてまいります。

サッカー

(公社)岩手県サッカー協会 技術委員長 長谷川

仁



岩手県サッカー協会では、選手の育成・強化の一環として「トレセン活動」をU-10からU-16まで、男女各々で活動が続けてきました。8年前、いわて国体への強化が始まり少年男子は小学校4年生から小学校5年生の早生まれを中心に、女子は高校年代から大学・一般社会人まで幅広い層の中から、各年代のトレセン活動で育ってきた選手を中心に強化を図ってきました。しかし、少年男子と女子は昨年の和歌山国体まで思うような結果を残せずにいました。

いわて国体に向け、成年男子はJ3のグルージャ盛岡の単独チームで臨み、女子は県内選手の競技力向上を図るとともにふるさと選手の活用を行い、少年男子はターゲットエイジを中心に早生まれも含んだ強化策を進めてきました。いわて国体本番では、少年男子と女子は1回戦敗退に終わり、成年男子は2回戦敗退と目標達成にはほど遠く、これ

までの強化を結果に結び付けることができませんでした。8年間の強化を通して、まずはベースとなる個の資質や能力を十分に引き上げられなかったこと。そして何よりも県全体のレベルアップの底上げが図られなかったことが敗因であると痛感しております。

今回のいわて国体での強化事業は反省だけで終わることなく、今後の強化にも活かしていかなければなりません。若手指導者の育成と人材の発掘。県独自の強化指針の設定。そして多くの将来性ある選手の育成。これは今後も続く課題であり、継続していかなければなりません。その先の日本・世界で輝くような選手の育成に向けて、協会内の組織を再構築し、現在の各年代の基盤を強固にするよう、協会全体として選手、スタッフ関係者一同で精進していく所存です。

テニス

岩手県テニス協会 理事長 浅沼道成



テニス競技は、盛岡市と八幡平市の2会場での開催でした。八幡平市の安比高原テニスクラブは民間施設であり、公営施設の会場とは一味違った準備を求められましたが、両市の国体実行委員会と当協会の担当者がしっかりと連携を組んで多くの課題を解決してきたことが、本番の大会運営の大成功につながりました。特に、雨天や多くの試合が白熱し、予定のスケジュールが大幅に伸びた中で、人の手配や輸送、表彰式の運営などに臨機応変に対応できたことがまさに物語っています。

また、選手強化では、残念ながら少年男子のベスト16が最高の成績でしたが、ターゲットエイジ事業において強化された選手が、昨年の和歌山国体では少年男子初の8位に入賞し、他県に進学した選手もジュニア大会で全国

制覇するなど岩手のテニスの将来につながる大きな成果を残してくれました。

最後に、大会終了時に若いある委員会の副委員長が、やっと終わったなという安堵と充実感の中の最後のミーティングで、「来年も大会を開催したい」といった発言をされました。まわりはもういいよという雰囲気でしたが、まさにみんなの真意を得た発言だったと思います。うまく運営できたし、さらに次はもっとうまくやれるという自負を確信させてくれた発言でした。若い協会のメンバーからこのような言葉が出たことが、国体開催の成果であり、レガシーにつながるものと確信できました。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

ボート

岩手県ボート協会 事務局長 砂子田 仁



目標であった天皇杯 99 点には及ばなかったものの、少年 4 種目、成年 2 種目の計 6 種目が入賞、天皇杯 70 点 (11 位) を獲得し、近年では最高の結果を残した。これもひとえに五十嵐強化委員長を中心とした強化スタッフが粉骨碎身の努力を惜しまず、選手強化に尽力してくれた賜であると感謝している。

ターゲットエイジにあたる少年選手は、1 年次からほぼ固定されたメンバーで合宿や遠征を積み重ね、各種大会で確実に成果を上げながら、本大会に臨んだ。生徒数の減少に伴い、各高校とも部員数を十分に確保することが難しく、単独高校でクルーを編成することが困難であり、必然的に混成クルーを編成せざるを得ない現状であった。従って、同じ言語と思いを共有して全国で戦うことができる選手を育成するには、長期にわたる計画的な練習は

必要不可欠であると判断している。

成年は、県内に残って活動する選手が少ないため、実業団や大学で競技を継続している選手に頼らざるを得なく、大会直前に初めてクルーとしての練習をする状況であった。昨年より、実業団と大学の了解をいただき事前合宿を実施できるようになり、入賞が現実化してきたとも言える。また、選手間に、いわて国体にかける思いが高揚し、互いに連絡を取り合い、情報を共有し、各自が自覚を持って練習を重ねてきたことは、非常によい傾向であった。

今国体を通して得られた最も大きな成果は、少年・成年を問わず交流が生まれ、自分の競技に対する考えや経験を後輩に伝えていこうという思いを強くした選手が生まれてきたことであろう。

ホッケー

岩手県ホッケー協会 少年女子監督 岩 館 直 也



はじめに、本年開催のいわて国体まで多大なご支援とご声援を頂いた、多くの方々に感謝しお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

ホッケー競技は、成年男子 5 位、成年女子 5 位、少年男子 3 位、少年女子 2 位、競技別得点 154 点で、競技別天皇杯 3 位、皇后杯 2 位という結果となりました。今大会に向け、長期にわたり強化を進めてきました。選手構成は、成年は地元クラブチーム選手と社会人ふるさと選手と岩手出身の大学生ふるさと選手。少年は沼宮内高校と不来方高校の合同チームとなります。本年度は特に、強化練習会や県外遠征を数多く実施させて頂きました。成年チームは、社会人・大学生のふるさと選手との連携を図るため、ふるさと選手が所属するチーム先に遠征を行い、岩手チー

ムの選手として練習試合をさせていただき、連携を取りながら強化を図りました。少年チームは、県外の強豪校への遠征、チーム招聘事業を今年度は数多く実施しました。その他「チームいわて」「チームいわてホッケー」として、以前と変わらず 4 種別が連携、協力して強化に取り組み、成年男子と少年男子、成年女子と少年女子で練習試合を行うなど、お互いが切磋琢磨し応援し合いながら強化をできたことも成果に繋がった要因でもあります。

今回のいわて国体で培った競技力をさらに向上させ、「ホッケー王国いわて」を再び全国に轟かせるべく強化に励みたいと思います。今後とも、ご支援とご声援のほどをよろしくお願い致します。

ボクシング

岩手県ボクシング連盟 統括強化委員長 佐藤 甚



ボクシング連盟は、今大会、34年ぶり5度目の総合優勝を目指し挑みました。少年男子はナショナルトレーニングセンターでの年越し合宿をはじめ、毎月、大会期間と同日数の合宿を県内外で実施、成年と合わせ海外遠征（台湾）も2度行いました。成年は、普段は関東の所属大学等での練習となりますが、毎月あるいは隔月で県内スタッフが関東に出向きボクシングジムやトレーニングジムで練習を行いました。本大会直前には、全種別の代表選手で岩手山登山を行いチームの団結を高め、その後少年男子は北海道から九州、四国、中国、近畿、北陸を回る17泊におよぶ全国縦断遠征を敢行。成年男子は自衛隊体育学校に1週間缶詰めの徹底した合宿を行いました。国体までのこの1年間で実施した強化事業は、実に少年男子104日、成年男子51日、成年女子53日に及びました。

本大会では、目標点61.5点の強気の設定で優勝を目指しましたが力及ばず天皇杯4位、皇后杯3位にとどまりました。それでも選手たち個々がベストパフォーマンスを披露してくれ、準優勝2人、3位2人、5位2人と過半数が入賞、計40.0点を獲得することができました。何より、今大会の会場は、近年の国体では見たこともないような大観衆と大声援に包まれました。そのなかで競技できたことに対する喜び、特に本県選手試合時の会場が一体となった盛り上がりは、とても感動的で涙を流している人もいました。今大会に携わってくださった方々に刻まれた感動と語り継がれていく記憶、さらに補強選手に頼らず県内選手の強化にこだわり取り組んできた過程で身につけたスキル、人脈、情熱こそが我々のレガシー、今後の岩手ボクシング発展の礎になるものと期待しています。

アスリートの
声が、育てるモノ。



明日は、きっと、できる。

「世界と戦う理想のフォームを維持し続けたい。」 室伏選手

「壁を超えてタテに落ちるシュートでゴールを決めたい。」 本田選手

「細かなステップワークにこだわるから素足感覚に近づけたい。」 福原選手

ミズノはさまざまなトップアスリートの声を聞きながら、その要望に応じています。世界で戦うアスリートたちの想いが生んだ技術は、やがてあなたのモノになります。

ミズノ製品は、
アスリートの声で
できている。

mizuno.jp ☎0120-320-799

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

バレー
ボール

岩手県バレーボール協会 強化委員長 田 中 基



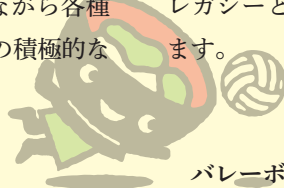
いわて国体に向け、強化の第1歩が踏み出されたのは平成22年頃でした。少年種別の強化に際し、初めて小中高強化担当者合同会議を開催し、国体ターゲットエイジの子どもたちをどのように育成していくかの検討がなされました。それ以降、小・中・高それぞれのカテゴリで合宿・遠征を実施、中体連の協力をいただいて県選抜ジュニアチームを編成し、県外チームを招待しての大会開催、県選抜セカンドチームを編成し、クラブの大会に参加するなど、様々な強化事業が行われてきました。また、成年種別に関して、男女ともに母体となる企業チームを持たない岩手県にとっては大きなハンデが有りましたが、クラブチームの熱意に支えられ、仕事と両立しながら各種大会へ出場し、また、大学やVリーグチームへの積極的な

遠征を重ねて強化を進めてきました。

その成果が徐々に始まったのが長崎国体で、全4種別中3種別がブロック予選を通過し、さらに和歌山国体では全種別で本大会に出場し、成年男子で競技得点を獲得しました。

集大成となるいわて国体においては、成年男子が4位入賞、成年女子・少年女子が5位入賞し、天皇杯順位3位、皇后杯順位4位と、過去にない成果を上げることができました。

この成果は選手・チームスタッフはもとより、各カテゴリで携わった指導者の熱意や、県内バレーボール関係者の総力が結集したものだと思います。いわて国体をゴールとするのではなく、これまでに行った取り組みをレガシーとして、より発展させていきたいと考えております。



バレーボール競技少年女子 主将 佐々木 遥 香

平成23年3月11日の東日本大震災から5年。私は大船渡出身なので、震災の悲惨さを痛感しました。一時は開催を中止するという考えもありましたが、復興支援という意味も含め、地元国体が開催できたことを、そして選手として出場できたことを、本当に嬉しく思います。

一生に一度であろう地元国体での総合開会式。会場では、チームいわての力が結集していることを肌で感じ、今までにない感覚を味わうことができましたし、とても壮大感のあるものでした。本当に感動的で涙が出そうでした。たくさんの方々に応援され、期待されて、改めて絶対に負けられないという想いを強くしました。

いわて国体で勝つために、中学の頃から本格的に強化へ取り組み、仲間と切磋琢磨してきました。高校入学後は、数多くの県外遠征に行き、様々な面から感性を磨くことができました。そして、平日頃から「勝つチームにふさ

わしい言動、行動を！」「周りから応援される、愛されるチームになる！」をモットーに活動してきました。最終的に勝敗を分けるのは人間的な部分であると常々言われていましたので、私たちが将来人の役に立つ人間になるためにはどのようにすべきか、最終的には自立へ繋げることをチームの目的として、心の部分をこだわり、強化してきました。

私たちの目標は「優勝」でしたので、5位という結果で終わり、複雑な気持ちで一杯です。自分たちにとって満足な結果ではありませんでしたが、競技別天皇杯順位3位、皇后杯順位4位を獲得することができました。

いわて国体を開催するにあたり、協力してくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。この地元国体の感動は、一生忘れることはありません。



体操

岩手県体操協会 国体強化責任者 及 川 幸



いわて国体強化に向け、旧盛岡短期大学体育館を借用できたことは強化選手の成長に大きな影響を与えてくれました。体操競技の特性上、男子6種目、女子4種目の器具を常設してある専用体育館は選手強化に欠くことの出来ない絶対的必要条件でした。毎日の練習前の器具セットや終了後のカットを余儀なくされる体育館では、それだけで無駄な時間と選手に体力・精神的ストレスがかかり競技力向上を望む上で、頭を悩ませる障害でした。常勝県は専用体育館があり本県の練習環境とは比較にならない程の恵まれた環境を持っています。この環境作りが大きな課題であり壁となっていました。

しかし、旧盛岡短期大学体育館が体操専用体育館となり、全種別の強化選手が日々集い練習する中で、切磋琢磨し合える練習拠点場所となりました。また、指導スタッフ

も体育館内で情報共有と他種別の進捗状況に触れることで、種別の枠を超えお互いに学び合える場でもありました。そのことが競技別総合6位(成男準優勝、成女5位、少男10位、少女16位)という快挙を成し得ました。このような、拠点となる専用体育館を提供して下さった多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

また、次世代のJr選手においても、強化選手と共に練習しアドバイスをもらう中で、体操競技への関心と意欲がより高まり、着実に力をつけ、全国で闘える選手に育ってきています。本国体の成果を次の世代にレガシーとして引き継ぎ、より発展させていくためにも専用体育館の存続を熱望し、夢ある将来の国体選手となるjr選手の育成に努力していきたいと決意を新たにしています。

新体操

岩手県体操協会 新体操強化担当 藤 原 牧 子



新体操は美しさを競う採点競技ですから伴奏音楽と演技構成には多くの時間を費やしました。

いわて国体を象徴する「復興と再生」を表現するため、「鎮魂→祈り→復興→希望」を作品の中に盛り込みました。鬼剣舞には鎮魂の意味があると知り、地元「岩崎鬼剣舞」の監修のもと、作品の導入部分に起用させていただきました。

7月16日、大船渡市で演技会が開催されました。新体操を初めて観の方がほとんど聞いておりましたが、予想以上の反響にビックリいたしました。演技中、拍手や歓声を肌で感じながら、それに応えようとする選手たちと激励する観客で会場は熱気に包まれ、まるで国体の前哨戦のようでした。

演技会終了後、実行委員会の案内で、復興半ばの大船渡

の街を見学させていただきました。その時目にした3.11の残骸は深く私たちの心に刻まれました。「3.11東日本大震災」の代弁者として演ずることの重大さを改めて確認させられた大船渡での演技会でした。

10月10日12時35分、「復興の架け橋」が始動しました。ピーンと張り詰めた空気を突き破るかのように、5人の選手たちが躍動して行きました。そして迎えた最後の瞬間…。

どんなにかこの瞬間を待ち望んだことか…。

テーマを演じ切った選手たちの笑顔のその先には「6位入賞」という輝かしい結果が待っていました。

新体操少年女子が発信した「広げよう感動。伝えよう感謝。」は、未来に向かって希望の風を吹かせた特別な演目であったと改めて思いを強くしているところです。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

バスケット
ボール

(一社)岩手県バスケットボール協会 強化責任者 松 戸 健 作



いわて国体を終え、少年男子の本県史上初の第3位という結果を残すことができたことは、国体開催に関わったすべての関係者のおかげであることは言うまでもなく、感謝してもしきれない思いである。

国体を迎えるにあたり、【岩手国体開催による震災復興と「チーム岩手」の全国発信】、【国体以降の強化体制、競技レベルの維持向上】を目標として、各種別でいわて国体を見据えた準備を進めた。具体的には、少年種別では、国体の主力になるターゲットエイジの選手に早期から注目し、県協会独自の「71国体種別候補選手」を指定し、強化の基盤作成に努力した。成年種別について、男子はST-IWATE、女子はLEGEND・IWATEを強化指定クラブとして新設し、継続した強化を進められるような中心クラブとするなど、各種別で国体に向けた下地を共通理解の元

に準備した。

結果や成果としては、すでに述べた通り、少年男子は1回戦を勝ち上がった愛媛県を破り、続く準決勝では惜しくも京都府に敗れ第3位。少年女子は沖縄県に敗れ、1回戦敗退であった。成年男子は、1回戦の沖縄県、2回戦は第3シードの愛媛県を破ったが、3回戦の栃木県に敗れた。成年女子は、岡山県に敗れ、1回戦敗退であった。どの選手もスタッフも、地元開催で行われる国体の代表として、高い意識を持ってこれまでの練習や国体本番に臨むことができた。

今後は、いわて国体までに得ることができた経験と知識・技術、戦術等を宝物として次世代に継承し、今後も県内のバスケットボール関係者に勇気と希望を与えられるように、努力を続けていく。

レスリング

岩手県レスリング協会 事務局長 一 郷 武 彦



第71回希望郷いわて国体レスリング競技会が、10月7日から10日までの4日間、宮古市において46年ぶりに開催されました。

東日本大震災津波で甚大な被害を受け、開催が危ぶまれましたが、大会を受け入れてくださった宮古市、運営に携わっていただいた実行委員会をはじめ、補助員として協力してくれた市内3校の高校生、ボランティアの皆様、県内外からお集まりいただいた競技役員の方々のお力添えをいただき、無事成功裏に大会を終えることができました。感謝申し上げます。

また、本県選手団におきましても、かつて無い素晴らしい結果を収めることができました。

成年グレコローマンスタイル66kg級・川瀬選手(県体育協会)、少年フリースタイル120kg級・大崎選手(種市高校3年)の2名が優勝。女子フリースタイル53kg級・菅原

選手(種市高校教)第2位。成年フリースタイル86kg級・伊藤選手(HUG)、成年グレコローマンスタイル98kg級・横澤選手(盛岡市役所)、少年フリースタイル84kg級・佐藤選手(種市高校3年)の3名が第3位。藤原選手(盛岡工業高校3年)が5位入賞を果たしました。

競技別総合成績でも天皇杯6位、皇后杯2位を獲得し、有終の美を飾ることができました。これもひとえに、強化を担当した、県内監督(盛岡工業高校教)・濱道監督(種市高等学校教)・上野コーチ(宮古商業高校教)のおかげです。特に高校生は、高校から競技を始めた選手ばかりであるため、基本からの指導となります。強豪県はチビッコからの選手が多く、すでに差がある状況からのスタート。この状況を克服するため、県内外への遠征合宿等を重ね、このような成果につながったと思っています。プレッシャーの中、指導にあたられた関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

セーリング

岩手県ヨット連盟 監督 川口 進



平成 23 年 3 月 県内の競技拠点であるリアスハーバー宮古は、東日本大震災津波により甚大な被害を受け、保管していた艇体・セール等を失いました。この状況下において、海上練習中の高校生が全員避難でき無事であったことが唯一の救いでした。

地域、県内の皆様を始め、全国の数多くの方々の支援により、競技に必要な艇や備品を揃え活動を早期に再開することができました。改めて深く感謝申し上げます。

そして、この困難を乗り越えた高校生達がいなければ、岩手県はヨット文化を失っていました。震災以降に競技を始めた選手が、国体選手団の 6 割を占めると同時に、運営役員・補助員・練習パートナーとして多くの場面で支えてくれました。

選手強化は、震災を機にリセットされました。残された

期間を有効活用するため、1 人乗り種目は外部指導者に依頼、本県指導者は 2 人乗り種目に専念しました。

また、成年男子は 1 人乗り、その他種別は 2 人乗りを重点強化とし、対外試合で発見した課題克服のため、宮古では本番のコース設定で練習を繰り返しました。

いわて国体では、全種別で入賞し、天皇杯 7 位、皇后杯 8 位の結果を残すことができました。この結果を通じて、支援していただいた皆様に感謝の気持ちを伝えられたと考えております。

艇や拠点があるのは、多くの方の支援によることを伝え続け、宮古・宮古商業ヨット部が競い合い、入賞を継続することが、今後の岩手ヨット界にとって重要なことだと考えています。

ウェイトリフティング

岩手県ウェイトリフティング協会 監督 吉田 新一



大会初日、成年男子 56 kg 級の艾幸太（県スポーツ振興事業団）と 62 kg 級内村湧嬉（岩谷堂高校教）がクリーン＆ジャークで優勝したのを皮切りに、選手諸君は素晴らしい試技を見せた。男子 7 選手は全員が入賞を果たし、本国体から正式種目となった女子種別に出場の高校生 2 人も堂々たる試技を見せた。競技得点 39 点で 15 位とベスト 8 にはならなかったが、成年は県勢最高となる 31 点を獲得、種別初の第 7 位となった。県記録も種目別で 9 つ更新された。

振り返れば、普及に強化に奔走した道のりであった。競技者の確保という本競技の恒常的課題に苦慮する中、中学校を訪問して教室を開いたり、市の事業とタイアップ

して五輪メダリストを招聘しての講演会等を実施したりした。女子選手の確保を目的に県外選手の勧誘も試みた。強化事業として年間で 10 回を優に超える強化合宿を何年も続けた。今年実施した成年選手を中心とする盛岡工高での練習会は 20 回を超えた。こうしてみると、選手はもとより指導スタッフ、協会関係者がいわて国体に向けて、まさに粉骨砕身取り組んできたのだと痛感する。数値的な評価については様々な見方があるが、すべての関係者がそれぞれの立場で力を尽くし、また支え合って取り組んだことは紛れもない事実である。

最後に、選手の頑張りと、それを支えて下さったすべての方々に衷心より感謝申し上げます。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

ハンドボール

岩手県ハンドボール協会 少年女子監督 大 沢 勝



ハンドボール競技では、希望郷いわて国体におきまして成年男子・少年男子ともに5位入賞という成績を取ることができました。これまで岩手県体育協会をはじめとする関係者の皆さまにたくさんのご支援とご協力をいただきましたことに深く感謝しております。

県ハンドボール協会の強化の目標としては、地元国体での上位入賞はもちろんではありましたが、それ以上に今回は強化のゴールではなく、地元国体を期に強化の柱を築き上げ、今後さらなる成果を上げていくことを大きな目標としていました。それに沿って各種別監督が長期の強化計画を立案し、取り組んできました。

少年種別の強化は、当時中学2年生だった現高校3年生を強化指定選手として選考した時からスタートしました。

強化事業としては、全国各地で行なわれているプライベート大会への参加や県外交流、また、国内のみならず韓国チームとの海外交流等も実施しました。

成年種別は、男子はHC岩手、女子は富士大学を中心に強化を行い、ジャパンオープントーナメント大会へ参加、第67回日本選手権大会においては男女ベスト8、全日本社会人チャレンジ2016では男女優勝と強化の成果を上げてきました。

最後に、地元国体で多くの観衆に大声援を受け試合をさせていただいたことは、大きな喜びでした。今回の経験を生かして今後の国体で成果を上げられるように、更に強化に励んで参ります。

自転車

岩手県自転車競技連盟 強化委員長 猿 舘 貢



10月7日周りからの大声援と、秋篠宮真子様の御臨席を賜り紫波自転車競技場には、今までにない来場者が訪れました。

震災後いわて国体での総合優勝を目標としての組織改革を始め指導者も少人数で当時は、2名しかおられませんでした。始めたのは審判資格者増員と高校の自転車部顧問の先生方に日体協指導者資格を受験していただくことでした。おかげで4名の先生方と社会人1名の指導者が誕生しました。

2013年東京国体から高橋一男トレーナーにチームに参加していただき指導体制が本格始動していきました。結果少年スプリント後藤悠2位、2014年長崎国体では成年スプリント後藤7位と毎年入賞はすれど優勝の文字が薄れていました。2015年和歌山国体では、トレーナーとして藤

尾哲也氏と佐藤真氏を迎え、国体に挑みました。結果、成年スプリント後藤悠7位、成年ケイリン藤根俊貴3位、少年ケイリン丹内朋紀5位と着実に成果を得ることが出来ました。2016年いわて国体を迎えて様々な物資として、機材はフレームメーカーとのタイアップ、測定器は紫波町新技術研究会のメンバーから装置をお借りして、個々の弱点分析を行いました。メンタルトレーナーは、佐々木求氏にお願いして全選手にカウンセリングしました。

結果、チームスプリント2位(大会新)、成年スプリント後藤4位、成年ケイリン藤根4位、成年1kmタイムトライアル照井拓成6位、少年スプリント安倍大成8位、少年1kmタイムトライアル中野慎詞5位総合天皇杯6位となりました。地元紫波町民の応援と宮監督はじめ、素晴らしいスタッフ陣のおかげで大会を終えたことに心より感謝申し上げます。

ソフト テニス

岩手県ソフトテニス連盟 国体強化責任者 伊 東 健



5年前「応援されるチームづくり」を合言葉に国体に向けた選手強化がスタートしました。あれから5年、少年男子がベスト8で第5位、成年男子もベスト8で第8位、全県出場の成年女子も3回戦進出のベスト16、少年女子も初戦で第4位の千葉県に惜敗するも、全種別で岩手のソフトテニスの底力を全国に示してくれました。

岩手県選手は、大会期間中の4日間毎日試合に出場し、大会運営役員を含め本県関係者が連日大声援を送ることが出来たのは、正に選手自身が「応援されるチーム」を表現してくれたことであり喜びに堪えません。

思えば5年前、少年男女は全国から選手が集まる強豪校に挑戦するため、中学からの一貫強化をスタートさせ、中高の指導者が一体となって指導にあたってきました。成年男女も圧倒的実業団有利の中、平日朝6時からの朝練習

と夜6時からの夜練習にも取り組み、実業団に負けない一体感を築き上げてきました。

また、全種目に全日本チャンピオンのアドバイザーコーチを配置し、スタッフとの二人三脚で週末の遠征や合宿をサポートしていただきました。

それらの努力が実を結び、全国の強豪に全くひるむことなく勝負する選手の姿は、これまでの取組が確かであったことを物語り、大きな自信となりました。今後、これらの財産を継承し発展させることが我々スタッフの責務と思っています。

おわりに、様々ご支援を頂いた関係機関、ご理解いただいた家族や職場の皆様、そして必死に応援いただいた岩手県民の皆様に心から感謝申し上げ結びといたします。

卓球

岩手県卓球協会 事務局長 高 橋 栄 喜



県卓球協会では平成23年度より希望郷いわて国体で全種別ともベスト8以上の成績を目標とし、新たに強化本部を立ち上げ、組織力の充実を図ると共に、強化方針・計画を策定し強化事業がスタートいたしました。そして、ターゲットエイジの選手を選考し、強化を進めてきました。

また、東京より2名のアドバイザーコーチをお招きし、ターゲットエイジに当たる選手を中心に長期に亘って誠心誠意ご指導頂きました。そして、強豪チームへの強化練習を増やして、選手個々に自分の課題を明確に持たせ、その上で日本トップレベルの選手の胸を借りて強化を進めてきました。さらに2名のトレーナーの方のお力添えも頂き、選手のコンディションを整えていただきました。

そして徐々に強化の成果が出始め、平成26年度の長崎国体では、成年男子5位(43年ぶり)少年女子5位(37年ぶり)入賞、平成28年度の東北総体では、総合で初優勝するなど

各種別とも少しずつ強化事業の成果が出てきておりました。

しかし残念ながら、希望郷いわて国体では、成年男子3回戦敗退(ベスト16)、成年女子(ベスト16)、少年男子(ベスト16)、少年女子とも予選リーグ敗退と目標であったベスト8には全種別とも入賞できず、得点を獲得することが出来ませんでした。また組合せに恵まれないこともあり、たくさんのご支援や激励をいただきながら目標としていた競技得点を獲得できず残念な思いです。しかしながら、国体強化事業がなければ岩手の卓球は低迷したままであったと思っています。

県卓球協会では、この希望郷いわて国体で強化してきたことを一過性のものとせず、今後の強化方針・計画を策定していかなければならないと考えております。

最後に、希望郷いわて国体の卓球競技強化に熱心にご指導いただきました関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

軟式
野球

岩手県野球協会 強化対策委員長 浅利 昭 治



岩手県野球協会として希望郷いわて国体を10年後に控え、国体上位入賞出来るチームを目指し、強化対策委員会を立ち上げました。

翌年の2007年には秋田国体で準優勝を果たし、順調にスタート出来たかのように感じていました。しかしその後、国体には安定して出場していたものの、いざ本国体になると、一回戦は勝つことが出来ても、二回戦を勝ちきることが出来ないままでした。

いわて国体まであと3年、2013年に強化対策が岩手県強化委員会、岩手県野球協会合同でスタートし、優秀指導者としてヤクルトスワローズの公式スコアラーの志田宗大氏を迎え、天皇杯得点を勝ち取るチーム作りが本格的に始まりました。プロのコーチから教わる選手の眼は輝き、志田氏の話す言葉は一言も聞き逃すまいと、与えられる練習種目とその負荷はアマチュアのそれとは比べものにならず厳しいものでしたが、選手達は気力で乗り越え、彼らの体力と動きは日を追うごとに鋭さを増していきました。

その練習に耐えた選手達の傷んだ体を懸命にケアしてくれたのが、IATの及川、川崎の両名でした。強化宿泊時や県外遠征強化試合等では、深夜まで疲労回復施術に、痛んだ箇所の治療にと、寝食を忘れて尽くしていただいたお陰で選手達は安心して厳しい練習に取り組むことが出来ました。

2016年8月、台風10号の被災で、残念ながら岩泉球場

は開催不能となりましたが、岩泉町の分までと、他の開催地の関係者のご努力により会場変更や宿舍変更など行い無事開催にこぎ着けることが出来ました。

そうして迎えた希望郷いわて国体。岩手県代表の一回戦には久慈東高校のプラスバンドに合わせた600人からの大応援団に後押しされ、選手達は躍動し広島県に3対1で勝利しました。いよいよ課題の二回戦、対戦相手は長崎国体準優勝の宮崎県。手強い相手ではありましたが、8月の代表決定戦に偵察部隊を送り込み、各地区代表の映像とデータを完璧に入手し、分析していました。ミーティングでしっかりと分析結果と映像を確認し、挑戦者の気持ちを忘れる事なく強豪に挑み、大方の予想を覆す見事な戦いで3対1と勝利し、念願のベスト8入りを果たすことが出来ました。

準々決勝では優勝した神奈川県に1対2で惜敗、5位6位決定戦も京都府に惜敗、オール岩手としても最後の試合になる7位8位決定戦は、意地でも7位・16点を獲得しようと試合前に檄を飛ばしました。

選手達は今までの重圧から解放されたかのようにグラウンドを駆け回り7対2で大分県に勝利し、なんとか故郷国体で7位に入賞することが出来ました。

なかなか結果の残せなかった9年間でしたが、大勢の皆様にご支援やご恩を忘れることなく、今後も岩手県の野球レベルの向上に繋げるべく精進を重ねてまいります。



相撲

岩手県相撲連盟 理事長 熊谷 晃



岩手県相撲連盟では、いわて国体での天皇杯獲得を目標にかかげ強化事業に邁進してきました。成年、少年合同での強化合宿、種別ごとの合宿、県外遠征や合同練習など指導者、選手、スタッフが丸となり国体での活躍を期し努力を続けました。特に、競技人口の少ない相撲では、他県への遠征や招待、強豪校、強豪チームとの合同練習、全国規模の各種大会への参加が強化へ直結すると考え積極的に行いました。また、少年は週末合宿、成年は稽古機会の確保のために日曜練習など基礎力を高める練習にも粘り強く取り組みました。強化の成果は確実に現れ、少年は選抜大会ベスト8、IH ベスト8など好調を維持し、国体直前まで気合いの入った稽古を続けました。成年も五十嵐敦選手（盛岡市役所）や里館健選手（平舘高校教員）が実業団大会や教員大会で上位入賞するなど地力のある選

手が充実した稽古や遠征を行うことができました。

国体本番では地元の大応援団の声援に後押しされ選手は持てる力を出し切りました。結果だけを見れば、少年は予選敗退（対高知県4-1勝ち、対新潟県1-4負け、対大分県1-4負け）、個人出場者なし、成年はベスト16敗退（予選、対東京2-1勝ち、対鹿児島県2-1勝ち、対滋賀県3-0勝ち、決勝トーナメント1回戦、対新潟県1-2負け）、個人で里館健選手（平舘高校教員）がベスト8入賞と健闘しましたが目標には及びませんでした。しかし、選手1人1人が全力で目の前の対戦相手に逃げることなくぶつかり相撲を取る姿は会場全体を一つにしました。

今後も精進を重ね日本一を目指す稽古や生活を指導者・選手・スタッフ一同取り組んでいきたいと思ひます。

ウレタン系弾性舗装材 ロングパイル人工芝
オールウェザー-S ・ ビッグターフ
ベストプレー&メンテナンス



理想のフィールドづくりに貢献する



日本フィールドシステム株式会社 東北支店

〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南3丁目8-8

T E L : 019-681-2155

F A X : 019-639-0630

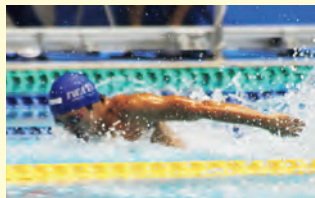
〔秋田営業所〕 TEL:018-824-6611

E-mail: nfs-ki@syd.odn.ne.jp

U R L : http://www.n-f-s.co.jp/

〔宮城営業所〕 022-392-0652

開会式





希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

馬術

岩手県馬術連盟 理事長 那須川 祐 吉



馬術競技は、他のスポーツと異なり、生き物である馬と選手が一体となっていく競技スポーツであります。国体馬術競技の開催、選手を出場させるには、選手と競技馬を同時に育成、強化を図らなければならず、競技馬を揃え、それを御す技術、その競技馬を調教、管理、競技馬の運動場の整備など、何項目もの課題をクリアしなければなりません。

また、今までの国体開催地を見本とすれば、強化費、競技馬、練習馬を揃えることはごく普通の事です、今回は震災県であり、余り無理も言えず競技馬購入資金の協賛者を募ることから始まりました。お陰様で岩手県強化本部様はじめ、会員、関係者の皆様方多くの賛同者により、平成25年に馬場馬術競技馬を購入することが出来ました。

その年の国体ブロック予選では、久々に総合2位となり、東京国体には6頭が出場し、いわて国体への選手強化に繋げることが出来ました。26年度の長崎国体では、成年男子 佐藤改選手が5位、成年女子 渡邊咲選手が7位入賞、他の出場選手も入賞目前の順位となり、強化は順調に進みました。

27年度わかやま国体は、成年男子 斎藤圭介選手2種目で各6位、成年女子 黒須晴子選手が7位、少年の部では千葉遥選手が5位と7位で2種目入賞、小野寺梨紗が3位、



馬術総合順位20位と、いわて国体での上位入賞の目標に弾みがつきました。

本年「希望郷いわて国体」では、先から購入し、強化を計った馬場馬術競技、成年男子の斎藤圭介選手（水農OB）が4位、5位と二種目に入賞、成年女子の黒須晴子選手は得意の障害飛越

競技から馬場馬術競技に転向し、まだ日は浅かったものの、根っからの根性を発揮して、最初の種目こそ12位でしたが2種目目を3位とし表彰台に上がる頑張りをを見せてくれました。少年の千葉遥選手（金ヶ崎高校）も1年生ながら堂々の演技を披露し5位、6位と二種目入賞と頑張りと、今後の国体上位入賞に大いに期待出来る演技でした。

障害飛越種目の少年部門については種目、獲得点数が多いことから、国体、インターハイで数々の優勝、入賞者を輩出している水沢農高乗馬部員を重点強化とし、県外大会に参加させるなど、強化を進めてきました。技術的には全国レベルに追いついていましたが、実践を想定した練習、競技馬とのイメージトレーニング不足が出てしまったように思えますが、入賞はあと一歩と後世に残る頑張りをを見せてくれました。

また、結果での言い訳になりますが、練習馬不足により競技馬での練習強化、県外実践強化練習する事となり、競技馬の調整不良が生じました。そのことが本国体まで響き、成年女子、渡邊咲選手の9位を最高に、残念な結果となりました。リオ・オリンピック出場を見送り、早くからいわて国体のためにコーチとしてご尽力いただいた増山コーチに報いることが出来ませんでした。今後の岩手の競技選手、関係者に種を蒔いていただきました。その種を大きな幹とし、大輪を咲かせることが出来ると確信した大会でした。成年男子、女子選手が購入した競技馬も確実に成長しましたし、今後に繋がると確信いたしました。

今後は、少年選手が成年選手として活躍しながら、少年を育成する環境作り、そして成年の経験者が優秀コーチとして、優秀な少年の育成をし、より良いチームワークをもって競技力を高めていきたいと思いますので、今後ともご協力をお願いいたします。

フェンシング

岩手県フェンシング協会 国体強化責任者 田村 明



これまでフェンシング競技は平成15年の静岡国体の3点獲得後は低迷が続き、平成26年の長崎国体でも1点も取ることが出来ずにいた。そのフェンシング競技が昨年の和歌山国体では39点(成年女子21点・少年女子18点)、いわて国体では成年男子フルーレの優勝(本県フェンシング競技史上初の日本一)も含めて45点(成年男子24点・成年女子9点・少年女子12点)を獲得することが出来たのだが、その理由について考えてみたい。

まず成年については男女ともに選手確保が上手くいったこと、少年についてはおよそ10年前から取り組んできたいわて国体を見据えた強化(ジュニア選手育成)があったことが挙げられる。特に少年については、このジュニア選手育成がなければ、2年連続の点数獲得には結びつか

なかったと思われる。他にも強化に携わっていただいた優秀指導者の方々、IATトレーナーや県の協力、選手・スタッフが所属する職場や学校の理解や、会場に応援に来てくださった観客の皆さまなど、本当に多くの方のお陰であると感謝している。

今後についてだが、国体で安定した点数を獲得し続けるためには、ジュニア選手の育成は不可欠である。また、高校から競技を始める選手が結果を出すための指導方法についても、指導者間の情報交換が必要であろう。これまで以上に岩手県フェンシング協会を中心に、スタッフの協力体制の確立が必要であると考えている。

柔道

岩手県柔道連盟 強化部長 阿部 博之



希望郷いわて国体に向け、平成22年から当連盟は強化事業を進めて参りましたが、震災のため大きな混乱の中での強化事業となりました。

国土館大学を中心に山梨学院大学、筑波大学で快く岩手県選手団の強化合宿を引き受けていただき、一か月に1~2回、週末に出かけました。全日本の強化選手と一緒に稽古をすることで意識も高まり地力もつき、その結果、昨年は成年女子が初優勝という成績を収めることができました。

本大会前年の優勝は、成年男子・少年男女にとっても大きな刺激になりました。

また、強化の成果と同時に課題も明らかになりました。

それは、技術的に不足している部分の強化です。しかし、選手個々が自分の課題を明確にもって練習に臨み、強

くなるためにさらに強い選手の胸を借りて刺激し合うことで確実に技術面を高めることができました。

技術面の強化もさることながら、相手選手の分析や練習環境をしっかり整えることを常に念頭におきながら、本番に備えました。

結果は、成年男子、少年男子、少年女子は初戦敗退、成年女子5位でした。全体として、是が非でも勝とうという姿勢が随所に見られる充実した試合内容でした。

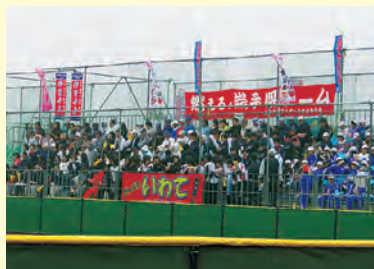
その中でも、成年女子の2年連続入賞は、大きな成果であり、これからも、国体及び各種大会での活躍が期待されます。

いわて国体に向け、遠征の度に練習環境を作っていた大学の先生方、選手の所属先の理解と応援、当日には心身共に支えてくださったトレーナーの方々に厚く御礼申し上げます。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

ソフト
ボール

岩手県ソフトボール協会 強化本部長 大塚 健 樹



ソフトボール競技の結果は、成年女子が1回戦突破で20点獲得、少年女子が3位入賞で44点獲得で、合計74点を獲得し、総合5位という成績でした。成年男子、少年男子は、ともに1回戦で敗れ、得点を獲得することはできませんでした。

成年女子は富士大学の学生と卒業生で構成され、1回戦の東北福祉大で構成された宮城県に勝ち2回戦に進みましたが、2回戦で企業チームで構成された群馬に接戦の末敗れました。少年女子は、一関第一高校、花巻東高校、千厩高校から選抜されたチームで、中学の頃から強化指定され多くの遠征試合を経験し、チームワーク抜群のチームとして臨みました。強豪県のチームを下し、準決勝まで進みましたが、最後は力尽き3位という結果となりました。

成年男子は盛岡大学と仙台大学のOBに投手と強打者を

補強して臨みましたが、1回戦で優勝した栃木県と対戦し善戦しましたが惜しくも敗れました。遠征を通して確実に力をつけていただけに、悔やまれる結果でした。少年男子は、盛岡中央高校、福岡高校、金ヶ崎高校という県内に男子ソフトボール部がある高校全てから選抜して総力戦で臨みました。しかし、500名に上る大応援団に逆に緊張してしまったのか、遠征で磨いたチームワークを発揮できずに初戦敗退となってしまいました。

成年女子も少年女子も小学生の頃からソフトボールという競技に親しんでいます。男子は高校に入ってからや、大学に入ってからと、競技経験が浅いということが、今回の結果となってしまったと言えます。遠征等を増やしてチームワーク抜群のチームにどの種別も仕上がったものの、経験値の差が最後に出てしまいました。

バドミントン

岩手県バドミントン協会 少年男子監督 菊地 亨



少年男子1回戦。ダブルスで先制し、続く第1シングルスがマッチポイントを迎えました。競技得点獲得まであと1点。会場内の関係者、応援者が見守る中でその時は訪れ、最後のラリーをもぎとった瞬間、会場内は歓喜に包まれました。

準々決勝は岡山県と対戦。少年男子の目標はベスト4。ここが正念場です。試合直前には全種別の選手団全員が肩を組み、少年男子の出陣に心からのエール送り、その雰囲気の後押しされ準々決勝へ。ダブルスは第1ゲームを勢い良く奪い、第2ゲームも優位に試合を進めましたがファイナルゲームで岡山勝利。第1シングルスは接戦で奪い返し1-1。勝負は第2シングルスに委ねられました。岡山県はU19日本代表。大方の予想は岡山県圧倒的有利。第1ゲームを奪われ、第2ゲームも不利な状況は変わりません。しかし、地元応援団の力をバックに、連

続10点をもぎ取りファイナルゲームへ持ち込みました。選手たちがこんな底力を備えていたとは。改めて高校生の可能性に驚かされ、大一番での戦いぶりに感動を覚えました。試合は残念ながら敗れましたが、選手には感謝の気持ちで一杯です。「7.5点」。目標点には及びませんが、全種別が力を合わせて獲得した7.5点です。県内練習は常に成年・少年男子の合同練習で、これが少年男子強化には好影響を与えました。また、県内関係者はもとより全国のバドミントン関係者のお力添えを戴きました。この場を借りてお力添えを戴いた全ての皆様に感謝申し上げます。

これからは、これまで培った強化体制などを今後に引き継ぐための検証が必要となります。いわて国体は終わりましたが、岩手県がバドミントン王国となる日を夢見ながら今後の強化に繋げていきたいと考えています。

弓道

岩手県弓道連盟 事務局長 児玉 武 志



希望郷いわて国体弓道競技は、奥州市水沢弓道場近の場・遠的場を会場に開催された。二巡目の地元での国体を迎えるにあたり、競技別男女総合優勝を目標に掲げ、本大会に臨んだ。

今回、実力を発揮すること無く精彩を欠いた少年男子であるが、平成 23 年山口国体までは優勝を含め、近的・遠的で上位入賞するなど、常に弓道競技の得点源であった。昨年の国体予選を勝ち上がり、復活の兆しが見え始めていただけに 2 種目予選敗退は残念な結果であった。少年女子は、昨年、岐阜国体以来の本大会出場を果たすなど、着実に力をつけ、期待通りの結果である。しかし、少年種別は高校に入学してから弓道を始めることもあり、長期的な強化が難しいことが継続した課題である。

成年男子は地元国体前年に、まさかの予選落ちで暗雲が漂った。立て直しを図るため、ふるさと選手の登用も視野に強化に取り組んだ。東京の大学に在籍している選手に強化練習会・選

考会等への参加を促し、選考会を経て、チームの一員として迎え入れた効果は絶大で、他選手の活性化も図られた。

成年女子においては、ここ数年で遠的優勝や両種目で入賞するなど順風と思われたが、今シーズンは精度があがらず選手選考にも苦労した。途切れることの無い強化合宿・練習会、さらには職場環境の変化もあり大変だったと思う。特に、今年のミニ国以降はハードな強化合宿・強化練習に耐え、集中力を切らず本大会に臨み、地元の期待に応えてくれた選手達に感謝する次第である。

成果としては、平成 24 年以降の開催県は競技別男女総合・女子総合に入賞できずにいたが、本県は 3 種別 4 種目で入賞、男女総合 5 位・女子総合 4 位と、入賞を果たすことができた。これも、地元の声援の後押し、選手の「ガンバリ」があったからこそである。

有り難う御座いました。

ライフル射撃

岩手県ライフル射撃協会 事務局長 佐藤 健 一



希望郷いわて国体ライフル射撃競技が 10 月 2 日から 5 日まで盛岡市と八幡平市で開催され、日本及び大会新記録が続出するなど成功裡に大会を終えることができました。

国体開催にあたってご尽力いただいた盛岡市と八幡平市の両実行委員会をはじめ、国体強化委員会、県体育協会など関係各位のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

さて本県の成績は、成年女子エアピストル 40 発競技でファイナル大会新記録を出した佐々木千鶴選手が見事優勝を果たしました。一方、入賞が期待された種目で残念ながら一步届かなかったこともあり、目標点数に及ばず悔やまれる結果となりました。

当協会としてはこれまで、国体基準に合った射撃場の整備はもちろんのこと、選手強化、とくにもジュニア選手の発掘、育成に大変苦慮してきました。

ライフル射撃は銃を扱う特殊な競技という一面から、全国の競技団体でも射撃人口の減少が共通課題となっております。

当協会としても国体に向けて人材の発掘から始めなければならない状況下でありましたが、体験会などを通じて中学生が射撃に興味を持てたのを契機に、盛岡市内の教育機関のご厚意により、その体育施設を毎週の練習会場として提供していただいたことで、ジュニア選手の裾野が広がり、定着させることができました。ジュニア選手育成が今後も成年種目につながる新たなステップにしたいと考えています。

成年では、ナショナルチーム選考会に出場するまでの選手を輩出できました。いわて国体を契機とした選手強化を今後も継続し、さらなる飛躍を目指します。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

剣道

岩手県剣道連盟 成年女子 大将 千葉実央



「全種別優勝を目指す」

これが四年前に本格的に強化が始まった時の目標でした。県の強化が始まる以前にも個人個人で国体にかける思いは持っていましたが、成年女子は東北ブロック予選を勝ち進むどころか、一勝を挙げるのも厳しい状況でした。それをアドバイザリーコーチである亀井先生は「優勝」という目標を掲げて、岩手県全体をまとめてくださいました。

強化練習少年男女、成年男女全員で準備体操・素振りから最後までおなじメニューをこなすよう指導されます。年齢も体格も体力も違うので少年男子についていくのは辛い時もありました。しかし、成年の大将が全力で稽古することでチームがまとまっていくということを何度も指

導され、コーチに来て下さる先生方が先頭に立って見本を見せてくださいました。師弟同行と言われますが、国体強化を通して、それぞれの年代での目標を持ちながら一緒に切磋琢磨していく大切さを学びました。

成年女子は、昨年東北ブロック予選で優勝し始めて国体への切符を手に入れました。この大会での経験を生かし稽古に励み、今年はブロック予選および国体本大会で優勝することができました。岩手県の方々をはじめ多くの方々に支えていただき稽古に取り組み練習に努めることができたことを心から感謝いたします。



ラグビーフットボール

岩手県ラグビーフットボール協会 事務局長 沢口明平



振り返ってみれば本格的に準備などが進んだのが2年前。数々の会議・準備を経てまいりました。開催地は少年男子が八幡平市、成年男子と女子が釜石市と2会場の為、協会関係者には大変な苦勞をおかけしました。特に開催地の皆様及び担当の方々には多大なるご支援、ご協力をいただきました。

本番の国体は10月2日の代表者会議からはじまり、10月3日は落雷により少年男子の試合が中断、10月4日は朝方の強風の影響で両会場とも本部テント等の施設が破損するなど、様々な状況の下、問題を克服し10月7日の女子決勝まで無事終了することができました。また、八幡平市ラグビー場及び練習会場については、芝の状態が非常に良く素晴らしいと、各方面からたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

大会を振り返って、成功に導いたキーワードは、協会として数々の大会を開催し、経験を踏んでいた事が運営面で生か

されたと思います。釜石協会・釜石市実行委員会・八幡平市実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

また、選手強化は委員長をはじめ各監督・コーチ・選手が一丸となり総合優勝目指し、成年は釜石SWの選手が中心、少年男子は選抜選手で臨み、女子は社会人・大学生・高校生・ふるさと選手の混合チームで本大会を戦いました。成績は成年が6位・女子が予選敗退・少年が1回戦敗退の結果で終わりました。関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。

今後はこの結果を踏まえて、ラグビー競技の普及育成・強化の方法など、手法・手段が次へ繋がるよう考えていきたいと思っています。

最後に希望郷いわて国体ラグビー競技に携わっていただいた皆様、無事大会が終了した事について誇りに思い、今後の活動に生かしていただければ、その時が本当の国体成功と言えるでしょう。

山岳

岩手県山岳協会 国体強化責任者兼監督 畠 山 晃



岩手国体では少年男子がリード優勝、ボルダリング準優勝、成年男子がリード6位入賞、成年女子と少年女子は入賞には届かなかったがそれぞれ健闘し男女総合6位、競技得点54点を獲得した。特に少年男子チームの優勝・準優勝は連日会場を沸かせ、地元国体の熱気と感動を多くの県民の皆様と分かち合うことができ、大成功の国体であった。また、国体直前には伊藤ふたばのアジアユース2種目優勝の報も入り、岩手の少年勢の活躍が特に目を引く国体期間となった。

岩手国体までの道のりを振り返る中、少年勢躍進の原動力となったいくつかのポイントが浮かぶ。

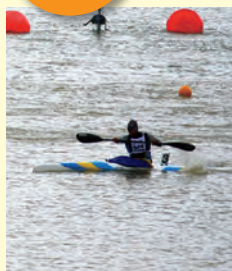
真っ先に行ったのが「ジュニア教室」である。山内はじめ有望選手が皆この教室から出ていることを思えば、この教室の意義は非常に大きかった。そして次に「ボルダリング大会」を定期的に開催した。この大会により練習ルー

トも定期的な新しくなり、練習意欲を持続させる上で重要だった。一定の力がついてからは「県外遠征」を行った。重要であったのは成績よりも、山内らはこの遠征で小学校期から全国に友達を作り、その友達との交流で全国レベルに引き上げられたことである。岩手国体で優勝をかけ、熱戦を演じた東京都のリーダーは山内の親友であり、切磋琢磨し合いながら成長してきた。

そして、平成26年に上下可動式最新鋭のリード施設が竣工した。全国でも最長距離を出せるこの「施設整備」が選手達を一気に表彰台、そして世界レベルへと押し上げた。今後子ども達の目標は2020年東京オリンピックである。「岩手からゴールドメダリストを」が夢である。「世界に目を向けた取組」と「拠点施設の整備」を地道に進めながら、夢を現実のものとしたい。

カヌー

岩手県カヌー協会 事務局長 西 野 紀 子



カヌースプリント競技は、県内でカヌー部のある高校が不来方高校のみでありジュニアクラブもなく乗艇練習ができるのは4～10月中旬の半年間という環境のなか、そのハンディを克服するためシーズンオフは体力強化に専念することで、シーズンのオンとオフをはっきりと分けたトレーニングを積んでいます。

成年選手は、より良い環境を求め積極的に県外遠征や日本代表合宿に参加し常にトップレベルを意識し、少年選手は先輩達が築き上げてきた実績をステップに、更なるレベルアップを目指して練習してきました。

スラローム・ワイルドウォーター競技においては、会場地である胆沢川を土台に、ジャパンカップ出場等で全国トップレベルの選手と肩を並べて練習してきたことが、男女ともに地元国体で過去最高の成績を収めることがで

きました。

また、選手が本番で実力を発揮できた要因の一つにIAT（岩手アスレティックトレーナー）の陰の支えが大きく、日頃の練習はもちろん、選手一人ひとりの体調を管理し精神面も含めて徹底的にケアをしていただきました。

年々充実してきた選手強化事業を有効に利用し、スプリント小野監督、スラローム・ワイルドウォーター飛澤監督の綿密な事業計画のもと、全員地元選手の「オール岩手」で臨んだ希望郷いわて国体が、優勝を含む過去最高得点を出せたことは特筆すべきことであり「チーム岩手」の一員として誇りに思います。今まで応援していただいたすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

アーチェリー

岩手県アーチェリー協会 事務局長 松 尾 聡



全日本アーチェリー連盟の役員の方からは総じて素晴らしい大会であったと高い評価をいただきました。大会2日目は悪天候で大会運営が危ぶまれましたが、皆が協力して予定通りに終えることができました。これに象徴されるように、役員、審判、そして補助員がそれぞれの場所で責任をもって取り組みました。

大震災で役員養成や強化費が削減され、3年前には会場の雫石町が水害で大きな被害を受けました。そのたびに計画の変更を余儀なくされましたが、そんな逆境の中でも、お互いに知恵を出し合いながら運営と強化を両立すべく協力してきたことが大会結果に結実したと思います。大会結果はこれまでにない好成績でした。この結果を励みにして、今後も上位成績を維持できるように努力し

ていくつもりであります。

団体競技成年女子 第4位、成年男子 第7位、少年女子・男子 ベスト 16、天皇杯成績は第8位でした。

大会では、県選手が大変な緊張の中での的と向かい合っていました。そんな中観客席から大きな声援が聞こえました。補助員も整然と駆け足で作業を行っていました。Team IwateがOne Teamになっている。その様子に胸が熱くなりました。

これまで応援して下さった地元雫石町の方々はじめ関係した皆様に心より感謝申し上げます。岩手県アーチェリー協会として、いわて国体で結ばれた絆を大事にして今後も皆さんの期待に応えることができるように努力してまいります。

空手道

岩手県空手道連盟 実行委員長(理事長) 川 原 憲 正



希望郷いわて国体空手道競技は競技別天皇杯1位、皇后杯2位という輝かしい成績を残しました。個人成績も1位が2名、2位3名、4位が2名、5位が3名、団体は3位と、出場選手全員が入賞いたしました。岩手県空手道連盟が始まって以来の快挙です。

震災前、国体開催決定後に直ちに組織作りを始めましたが、震災で一時停止を余儀なくされました。その後、再度組織作りがなされ、国体に向けて強化が行われましたが、なかなか実績が上がりませんでした。組織内のトラブル等があり、最終的に確立したのが昨年、和歌山国体での惨敗を経験してからです。全空連からの指導によりアドバイザーコーチに帝京大学監督の香川先生、形の中山先生らを招聘し、また、同じ帝京大より形と組手の

2選手を岩手の選手に迎え、さらに県内のコーチ陣・監督も一新し、再出発しました。

全員が総合優勝を目指し、選手・コーチ・監督・スタッフが1年弱の短い期間、死にもの狂いの強化練習が行われました。平日は各道場・学校等で練習を行い、週末は金曜日から一同に集まり、強化練習・強化合宿・遠征強化合宿が行われました。その結果、上記の輝かしい成績を残すことができました。選手をはじめ監督・コーチ・スタッフが必死に目的達成に頑張った結果だと思います。それは、県・体協・市・全空連・岩手県連等の関係の皆様御協力の賜物だと思います。本当にありがとうございました。

クレ
射撃

岩手県クレ射撃協会 スキート選手 村 谷 信 明



前回のわかやま国体では3位だったため、「岩手でやるからには負けられない。絶対に3位以上。優勝を狙うぞ!」というチーム岩手としての団結と、県民の皆様の応援が、準優勝という結果に結びついたのだと思います。

国体に向けては、体力づくりや基礎的なトレーニングはもとより、体の反応スピードを高めることなどを目的に練習を行っていきました。岩手県で射撃場が閉鎖されてしまう冬季でも県外へ練習に出向くことによって練習時間を確保するなど、積極的に実技練習にも取り組みました。大会当日にパフォーマンスのピークを迎えられるように調整するのは難しいのですが、チーム全員で互いに改善点などをアドバイスし合うことで技術の向上が図れたと思います。個人の練習も大事ですが、集まって

練習することでチームの絆を深めることができました。

メンバー全員が出来ることは全てやり、時間さえあれば練習し、自信を持って大会に臨みました。そうして勝ち取った2位は嬉しい反面、悔しくもあります。1位とは僅か2点差で、あと一步だったと思うと非常に残念です。岩手には優勝できる力があると信じています。次のえひめ国体で優勝するために、悔しさをバネにしてさらに精進してまいります。



なぎなた

岩手県なぎなた連盟 国体強化責任者 細 川 都也子



手探り状態でなぎなたの選手強化はスタートした。この強化が本当に結実するのか、誰も見当がつかなかった。国体強化委員会より示されるまま、5年前から強化選手を指定した。選手層が薄いため、選手補強の提案がなされたが、地元選手で戦う覚悟を決め、本格的な強化が始まった。

競技得点を確実に獲得するためには、演技競技での優勝が必須条件であった。優秀指導者招聘事業の講師による演技指導を強化の柱と位置づけ、月に1~2度、全日本なぎなた連盟の講師を招き、技術指導を受けた。

選手は、仕事や勉強、就職活動、家事・育児など、それぞれが用務を抱えていた。にもかかわらず、国体を最優先してもらわなければならなかった。実際、選手全員と面談をし、やりきる覚悟があるかと問うた最初のミーティン

グ以来、何度も選手の涙を見ることになった。選手は、多くの苦悩と向き合いながらも、ストイックに練習に取り組んでくれた。

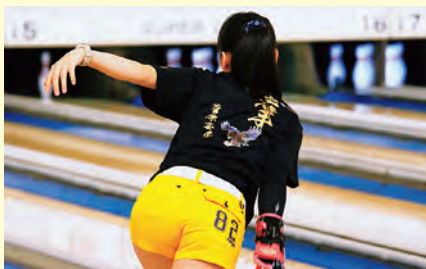
そうして迎えた本番では、少年女子演技競技で念願の優勝を果たすことができた他、すべての種目において入賞を果たした。特に少年女子の武田選手と山火選手は地元一戸町から排出した選手であり、その選手が優勝をとげたことは、一戸町に大きな喜びを与えた。決勝戦で岩手県に旗が5本あがると同時に、会場が大きな拍手と歓声に包まれ、会場一体となって勝利の喜びを分かち合うことができた。

選手強化に携わった人間として、選手を育成するシステムを早急に構築させ、来年以降も全国入賞できるような選手を輩出することが、使命だと思っている。

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

ボウリング

岩手県ボウリング連盟 事務局長 根 田 光 朗



10月6日から10月10日、盛岡市ビッグハウススーパーレーンを会場にボウリング競技が開催され、少年男子個人戦5位、成年女子個人戦7位で入賞いたしました。63回大分国体より成年種別で各年代別から年齢区分が無くなり、競技種目が変更されて、個人での入賞ハードルが更に高くなり、より厳しい競技方式となりました。少年種別では64回新潟国体の入賞を最後に、県勢の国体出場はあるものの本大会出場枠や全国レベルでの実力差から、地元開催に向けて、多くの課題を抱えていました。

他県と比べ、選手層の薄さや東北地区での戦いにおいても、勝ち抜く実力を備えるには、大きな見直しが必要でした。最新の情報や、基本的な土台形成に、経験豊富な指導者として板倉奈智美プロを招き、継続して指導を受け

ながら和歌山リハーサル大会、全日本選手権大会等で入賞者を輩出し、東北大会においても、入賞者が増え始め、地道な強化の結果が芽生え始めて大会を迎えることになりました。

東日本大震災復興の中で、選手強化への予算もままならない状況下において、今までにない強化費により強化できました。改めて、時間と機会を多く確保でき、多くの人の支えにより進めることができました。

ボウリング競技の醍醐味はチーム戦に有ります。結果からも個人のレベルの底上げはでき始めているので、戦える集団として団体戦により重きをおいて継続して強化していくことで、今まで培ったものを礎に花咲くのもすぐそこまで来ています。



目指すのは『自然』を含めた
トータルコーディネイト

ISO14001
認証取得



宮城建設株式会社

代表取締役社長 竹 田 和 正

本 社 〒028-8031 岩手県久慈市新中の橋4-35-3
TEL 0194-52-1111 FAX 0194-52-1297
盛岡支社 〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-13-55
TEL 019-622-8923
青森支店 〒030-0915 青森県青森市小柳1-16-72
TEL 017-763-0452

ゴルフ

岩手県ゴルフ連盟 国体強化準備委員会委員長 佐藤 信重



ゴルフ競技が国体の正式競技として採用されてから18回目にあたる今国体までの間、本県の入賞は第62回「秋田わか杉国体」に於いて成年男子の部で5位に入賞しておりますが、その後は下位に低迷しております。

いわて国体開催決定を受け、ゴルフ競技においても開催県に相応しい成績を挙げべく、「いわて国体ゴルフ競技強化対策委員会」を設立し、各部門に於いて8位入賞を目標に強化事業に取り組んでまいりましたが、結果として成年男子が39位、女子が36位、少年男子が28位と、何れの部門とも目標に遠く及ばない結果となりました。

しかしながら、少年男子・個人の部で米澤 蓮選手が6位入賞を果たした事は称賛に値するものと思っております。

大会を振り返って痛感することは、米澤選手以外、殆どの選手は県内若しくは東北大会出場に留まっており、全国レベルでの出場経験が少なかったことに加え、地元開催と相まって極度の緊張感に襲われ普段の実力を発揮できない選手が多かったこと。特に、開催年度はゴルフ競技の開催コースで集中的な強化練習を実施し、コースの特徴およびコース戦略を熟知していた事を考えた場合、

地元の利を生かしきれなかった事は残念でありました。

今後の課題としては、県外遠征等を行い、全国レベルの選手との合同強化練習を実施するなど技術面での向上は基よりメンタル面の強化も必要と考えております。

また、競技人口が伸び悩みの現状にあることから、若年層の育成と共にジュニア層の発掘により底辺の拡大を図り、競技の一層の普及に努めたいと思っております。

最後に、競技運営におきましては、競技委員・運営委員・補助委員として、各日300名以上のスタッフを、加盟倶楽部および会員の皆様から全面的なご協力をいただいたほか、岩手県・岩手町・八幡平市をはじめ、関係各方面からのご支援により成功裡に終了しましたことに、誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。



岩手県ゴルフ連盟

事務局／盛岡市中央通1-9-16 盛岡グランドホテルアネックス1F ☎019-622-8250

安比高原ゴルフクラブ
一関カントリークラブ
岩手ゴルフ倶楽部
岩手沼宮内カントリークラブ
江刺カントリー倶楽部
北上カントリークラブ

北上市民ゴルフ場
栗駒ゴルフ倶楽部
南部富士カントリークラブ
ニュー軽米カントリークラブ
八幡平カントリークラブ
水沢リバーサイドゴルフ場

南岩手カントリークラブ
宮古カントリークラブ
盛岡カントリークラブ
盛岡ハイランドカントリークラブ
盛岡南ゴルフ倶楽部
ローズランドカントリークラブ

希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

トライアスロン

岩手県トライアスロン協会 副会長兼事務局長 金田一 文 隆



震災後、紆余曲折があったが、開催が決定し復興の槌音とともに開催の準備が始まった。工事の進行具合を見ながらバイクコースを決めざる負えない状況で、未確定な要素を含みながらのコース設定。さらには台風被害があり前日までバイク、ランコースの調整に追われた。そんな中無事に大会が終了したことは、関係各位のご尽力に他ならず、感謝申し上げる。

地元の高校、大学にトライアスロン部がなく個々の取り組みで選手たちは国体を目指していたが、徐々に強化練習に入っていた。しかしながら男子の有力選手二人がふるさと選手ということもあり、全員がそろって練習出来たのは今年に入ってからだった。

男子第一代表寺沢選手に7位入賞を期待したが、地元

国体でやや気負ったのか、スイムで9位と好位置につけ、バイクでも第2集団内で競っていたが、そこで脚を使いすぎたか、ランに入って後退し21位の結果に終わった。

第二代表の岩淵選手は51位。女子第一代表の細川選手は24位、第二代表の大志田選手は55位という結果に終わった。しかしながら強化練習の成果は現れており個々のタ

イムはローカル大会では優勝に匹敵する記録だった。今後の課題としては、国体を目指す選手層を充実させることで、特に女子は代表の二人に続く若い選手を育てることが急務と考える。



スキー

(一財)岩手県スキー連盟 国体強化責任者 阿部 尚 賜



「2016 希望郷いわて国体スキー競技会」に向けては、スキー連盟として天皇杯の競技得点70点、順位としては5位ということを目指して強化に励んできました。もっとも力を入れたのは雪上での練習です。海外遠征を含め、早い時期から雪を求めて北海道に遠征するなど、雪上での練習に重点を置いて強化し、その成果は全体のレベルアップに確実につながりました。

そうして迎えた本番国体は、前年の国体結果から分析しても目標点獲得は十分可能と考えていましたが、怪我やインフルエンザ、世界ジュニア選手権への出場等で有力選手が国体欠場を余儀なくされ、また例年になく雪不足で、本番コースを使用している練習も計画通りにはできず、地元開催のアドバンテージを生かす事もできません

でした。結果的には目標得点を大幅に下回る天皇杯競技得点43点、順位も8位という近年でも低い得点結果に終わりました。

全体的には低調な結果に終わったものの、県勢のなかで優勝が2種目出たのは明るい話題でした。夏場の大会から結果を残し自信を持って大会に臨んだことが、最高の結果となって表れたものと思いますし、強化担当者として救われた思いでした。

近年の本県スキー競技はジャンプ、コンバインドの得点が大きく、日本代表として世界で活躍する選手も出てきています。このことを身近な手本としながら、さらに全体のレベルアップを図り競技力の向上に努めていきたいと思っています。

スケート

岩手県スケート連盟 国体強化責任者 平 間 茂 英



スピード種別、ショートトラック種別を併せて競技得点110点を目標とした。しかし、この目標を達成するためには成年種別での上位入賞獲得数設定が必要不可欠であった。

少年種別では、スーパーキッズを中心としたタレントの発掘や、優秀指導者を招聘し強化の統一性や共通理解を図り、強化事業においては強豪チーム・強豪選手との合同練習をすすめた。

成年選手では、優秀な選手の獲得に動くとともに、そういった選手の冬季オリンピックまでの競技活動環境を担保することに努めた。

選手強化と並行して、冬季オリンピック選手を輩出するビッグチャンス、次世代の指導者の確保のチャンスと捉え、戦略を策定し、また、71国体において岩手県選手が普段以上の力を発揮するために以下のことを進めた。

◆戦略

- ①コンディショニングづくりは日常生活から日々実践させること。
- ②①を具現化させるために研修会などへ参加すること。
- ③特に県外から獲得した成年選手とサポートシステムの接触をオフシーズンから図ること。
- ④試合競技直前、競技期間にベストコンディショニングで臨めるような環境整備を構築すること。

◆根拠

- ・最もインフルエンザや風邪、感染症疾病が発症する時期において、これらを防ぐことは競技得点にダイレクトに繋がる戦略そのものである。
- ・選手自身に最高のコーチ・監督を内在させることが、力を発揮するためには必要な条件であるから。
- ・差別化は必要不可欠であること。宿舍の選定、公式練習時間、選手控室、サポートシステム等、本県選手が最も有利な環境をプロデュースすることが地元開催の最大メリットであることから。

○結果総括

ショートトラックにおいては、希望郷いわて国体本県優勝第1号、村竹啓恒選手(県体協)の優勝により波に乗っ

た。スピードスケートでは、成年男子500m・1000m第3位に池田晋一郎選手(盛岡市役所)、5000m第2位に渡部知也選手(県体協)など、大量の競技得点獲得に必要不可欠な上位入賞をもたらした。

成年女子は、次世代の全日本を担うべき逸材である曾我こなみ選手(ホテル東日本)、藤森美希選手(八角病院)、阿部真衣選手(盛岡ヘアメイク専門学校)、地元期待の濱田芽生子選手(岩手県立大学)らがしっかりと入賞を果たした。

少年種別男女においては、予定していた決勝進出数を全て確保し、短距離種目を中心にダブル入賞を果たした。特に、斉藤龍汰選手(盛工高)の500m第3位の入賞は素晴らしかった。

○競技団体として真価が問われる今後

希望郷いわて国体までの取り組みを一過性のものとせず、今後永続的に競技力水準を維持するために、取り組みを検証し、精選を図る取り組みが必要である。現在、4つの戦略を策定し推し進めたいと考えている。

戦略を立て目標に向かって邁進してきたが、我々は決して孤独ではなかった。県体育協会ははじめ、複数にわたる企業やクラブ、医・科学サポートチームを含む国体強化委員会、県市国体推進室、県内報道関係等が寄り添っていただき共に歩んでいただいたことに、言葉で言い尽くせないほど感謝している。

このシステムこそが今後に残すべきレガシーであると個人的には考えている。他県ジュニア選手獲得のための方策を含め、本県はそうしたシステムのフロンティアでありたいと強く思うのである。この新たな取り組みの先には2020年の東京オリンピック、2022年北京冬季オリンピックにおいて本県選手の活躍があるものと確信している。



希望郷いわて国体2016までの道のり、結果と成果

アイス
ホッケー

岩手県アイスホッケー連盟 国体強化担当 本 間 一 也



希望郷いわて国体冬季大会アイスホッケー大会では、岩手県をはじめ、関係の皆様には、多大なご支援を賜りましたことを感謝申し上げます。

さて、少年男子と成年男子の2種別に出場したアイスホッケーですが少年、成年共に初戦敗退と、皆様の期待を裏切る残念な結果に終わってしまいました。

少年については、国体までの一年間を振り返ると月1～2回のペースで県外へ試合相手を求め、遠征を重ね、試合の経験値を高めることを重点に活動しました。

一方、成年は毎回の練習や遠征に於いて、参加選手を集めることが難しく、メンバーがフルに集まることは東北総体と国体の試合当日と言って過言ではない状況でした。

また、昨年9月より少年、成年共に日本トップクラスの指導者を招聘し、チームシステムを中心に高いレベルの指導を受けることになり、参加選手の増加とチーム力の

向上を期待しました。

東北総体、国体期間中にも帯同していただき、選手、スタッフとコミュニケーションを取りながらサポートしてくださり感謝しております。

結果とすると成年、少年共に「堅守速攻」のチームカラーの選抜チームですが、特に守備面に関しては、指導されたことで選手たちの意識の変化を実感できました。

しかし、攻撃面になると得点シーンになった場合の精度が向上せず、勝敗を左右したと考えられます。

また、試合での経験値がまだまだ未熟だったことも重要なポイントと言えます。

欠点を露呈したいわて国体となり、今シーズンも昨年から引き続き指導者招聘を継続し、欠点を一つでも改善することを目標とし、チーム一丸となり精進して参ります。

今後ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

信頼できる

Sportshop



岩手県スポーツ用品専門協同組合

盛岡市前九年3-6 藤沢体育堂本部内 TEL.019-647-8484

- 盛岡市 佐々木スポーツ 019 (641) 9371
- 盛岡市 スポーツサブ 019 (645) 5011
- 盛岡市 タイガースポーツ 019 (654) 1587
- 盛岡市 長谷川スポーツ 019 (636) 2002
- 盛岡市 藤沢体育堂 019 (647) 8484
- 八幡平市 モリサワスポーツ 0195 (76) 5450
- 一戸町 居也商店 0195 (35) 3231
- 一戸町 こもりスポーツ 0195 (33) 2686
- 久慈市 千葉運動具店 0194 (52) 0300
- 釜石市 田丸 0193 (22) 5551

- 大船渡市 田村スポーツ 0192 (26) 4019
- 一関市 アタックススポーツ 0191 (23) 7285
- 一関市 若山スポーツ 0191 (23) 5107
- 一関市 大原屋スポーツ 0191 (72) 2326
- 一関市 小野久商店 0191 (52) 2024
- 奥州市 及川スポーツ 0197 (23) 3727
- 奥州市 井上スポーツ店 0197 (35) 2952
- 奥州市 サンエススポーツ 0197 (35) 0110
- 奥州市 グランドスポーツ 0197 (56) 3228

- 北上市 アイガースポーツ 0197 (65) 3535
- 北上市 和賀スポーツ 0197 (63) 3052
- 花巻市 八森 0198 (24) 8110
- 遠野市 はやちねスポーツ 0198 (62) 2520
- 紫波町 たむらスポーツ 019 (672) 2220
- 紫波町 原スポーツ 019 (672) 2650
- 栗石町 ミネカワスポーツ 019 (692) 2308
- 宮古市 スポーツ・オールス 0193 (63) 0130
- 山田町 阿部運動具店 0193 (82) 3654

正式新種目, 公開競技, デモンストレーションスポーツ

正式新種目

国体における2020年東京オリンピックに向けた対策の一環として今回のいわて国体から7競技を正式競技として実施しました。本県選手も全種目に出場を果たしました。今後の活躍が楽しみです。

オープンウォータースイミング(男・女)



レスリング(女子)



ボクシング(女子)

7人制ラグビー(女子)



ウエイトリフティング(女子)



(岩手日報2016年10月3日付朝刊)



トライアスロン(男・女)

自転車(女子)



公開競技

正式競技以外にも、当協会加盟競技団体の8競技で、公開競技・デモンストレーションスポーツとして開催されました。幅広い年齢層の選手、愛好者が楽しみながらも真剣に試合に臨み、どの会場も熱気にあふれていました。

綱引き



ダンススポーツ



ペタンク



ゲートボール



バウンドテニス



武術太極拳



グラウンドゴルフ



パワーリフティング



デモンストレーションスポーツ

医・科学サポートの取り組み



いわて国体にむけたスポーツ医・科学サポートの取組

スポーツ健康課 健康科学担当 廣 澤 正 紀

1 はじめに

今年度行われた「希望郷いわて国体」は目標であった「天皇杯順位8位以内」を上回る「天皇杯第2位」「皇后杯第2位」という素晴らしい結果となった。

これも各競技団体の選手、指導者及び関係者の方々の並々ならぬ努力の賜物といえる。

我々「スポーツ健康科学担当」は、平成25年度よりスポーツ医・科学サポートの組織としてスーパーバイザー、スポーツ医・科学専門員など専門スタッフを配置し、スポーツ健康科学サポート事業を進めてきた。

2 これまでのスポーツ医・科学サポートの取組について

県が取り組んできたスポーツ健康科学サポート事業は岩手県営スケート場2階の「スポーツ健康課科学担当事務局」を拠点としていわて国体までおよそ4年に渡り、様々な事業に取り組んできた。これまで取り組んできた主な事業と実績は次の表のとおりである。(H25より累計)

事業名	主な内容 (国体強化選手等対象)	実施数	参加人数
① データ活用事業	選手の体力測定を実施し競技力向上に役立つデータ、トレーニングプログラムを提供する。	のべ100団体	1027名
② ワークショップ事業	医、歯、薬、栄養、心理学などのスポーツ医・科学知識をつける研修会。	のべ120団体	1331名
③ 心理サポート事業	心理に関する基本的な知識や理解を深め、選手の充実した競技生活を支えるための研修会。	14回	1902名
④ トレーニング講習会	安全で効果的なトレーニングや機能的な体の動作を指導「ファンクショナルトレーニング」	10回	911名
⑤ 指導者育成事業	指導者の資質向上を目的とした講習会。 「ペップトーク講習会」「リカバリー講習会」	16回	847名
⑥ スタッフ派遣事業	アスレティックトレーナー等を東北総体、国体などに派遣する。 【いわて国派】におけるAT・IAT派遣数(のべ数) AT 21名 IAT 42名 サポート競技団体数 27団体		

※参加人数はのべ数

そのほかに被災地域の中・高校生を対象とした体力測定と講習会などの被災地支援事業とスポーツ医・科学知識の普及を目的としたスポーツ医・科学講習会を実施した。

また昨年度からは強化選手に対して、それぞれの課題に応じた個別サポートを実施した。特に今年は選手の心身のコンディションづくりに配慮し傷害予防、アンチ・ドーピング、トレーニング、栄養指導そして心理サポートを集中的に取り組んできた。

地元開催の国体とはいえ、結果を求められるだけに選手、監督、コーチなど関係者のプレッシャーは相当なものであった。そういった不安要素を軽減し、心理的コンディションを整えて競技に臨ませるために心理サポートを重視した。心理的スキル（イメージトレーニング、集中、心理的準備や対処の仕方）のトレーニングや個人に対するカウンセリングの実施は大きな効果を発揮したものと思う。



3 アスレティックトレーナー派遣について

いわて国体において、アスレティックトレーナー（日体協公認アスレティックトレーナー：以下ATといわてアスレティックトレーナー：以下IAT）の合計派遣数はのべ63名、サポート競技団体数は27団体を数える。

AT・IATの役割は、トレーニング指導、アスレティックリハビリテーション、ケガの予防と処置、コンディショニングと多岐にわたる。この方々は、これまでいわて国体に向けて仕事と家庭を犠牲にして（特にIATはボランティアでサポート）選手たちを支えてきてくださった。そして自らがチームの一員として自覚を持ち、選手たちがベストパフォーマンスを発揮できるよう誠心誠意尽くしていただいた。この国体における岩手県の好成績は、選手、関係者の頑張りと、そしてAT・IATの方々の支えがあったからといっても過言ではないと思う。影の力として大きな働きをしたAT・IATの皆さんに心から感謝したい。

4 「いわての財産」として

これまでスポーツ健康科学サポート事業がスムーズに運営することが出来たのは事業運営に対してスポーツ医・科学委員会の先生方のご理解とご支援があり、各関係機関の協力体制が非常に素晴らしかったからである。（本当にありがとうございました。）

ドクターズミーティングでも「岩手のスポーツ医・科学サポートの取組」を紹介させていただいたが、この連携こそがスポーツ界における「いわての強み」であり「いわての財産」であると思う。これらとともに「スポーツ医・科学サポート」をいわて国体のレガシーとして、これからのさらなる岩手の競技力向上とスポーツの発展を期待したい。



5 今後に向けて

スポーツ医・科学は、これまでの経験や知識だけに頼る指導ではなく、競技者の競技力を評価して競技力の向上に役立つデータやアドバイスを提供したり、運動・スポーツによる健康の保持増進、疾病予防、そして運動・スポーツを行うことにより生じる外傷・障害の予防やリハビリテーションに役立てたりすることを目的とする。



今後のスポーツ健康科学の取組は、2019ラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック等国際大会に向けた代表選手を輩出することを目指して、トップアスリートの発掘・育成を支援するなど、岩手の競技力のさらなる向上を目指すことである。そして、それとともにスポーツ医・科学を活用し、県民スポーツの安全で効果的な活動、さらにはスポーツを通じた県民の健康づくりを推進していきたいと考えている。